

## ホテルオークラ本館

所在地 東京都港区虎の門  
用途 ホテル  
竣工年度 1962年  
所有者 (株)ホテルオークラ  
設計者 ホテルオークラ設計委員会  
(谷口吉郎・小坂秀雄・  
清水 一・岩間 旭・  
伊藤喜三郎)  
大成観光(株)設計部  
大成建設(株)設計部  
施工者 大成建設(株)  
維持管理者 (株)ホテルオークラ



【審査評】 ホテルオークラは昭和37年に開業して以来、日本というよりは世界を代表するホテルのひとつで在りつづけている。この間、日本の迎賓館として果たしてきたこのホテルの役割は、極めて大きいものがある。ホテルの質は、施設とサービスと料理の3つが基本的な要素とされているが、このホテルの施設は日本的な造形性の高さの故に、現在でも国内外から高い評価を得ている。

また、ホテルは不特定の人を主たる利用客とし、しかも、年間無休で24時間稼働するといった、建物の維持管理や保全上から極めて厳しい条件下に置かれている。定常的に必要になる改修も建物が稼働している状況下で行われざるを得ないし、建物の法定償却年数も他の種類のものに比べてはるかに短く設定されている。このように損耗が激しく、しかも、営業用の施設として時代の要請にあった改変が必要になるホテルにあっては改修がつきものである。ホテルオークラはこの改修にあたっては、ホテルの基幹となる部分——ロビー、メインダイニングルーム、大宴会場、外観など——は竣工時の雰囲気をそのまま継承しながら、独立した個々の営業スペース——客室、レストラン、バーなど——はその時代の要請に合わせて改変してゆく——という、ホテルとしての典型的な進め方をしていて、多くのホテルの手本になっている。また、先端を銅でカバーした軒庇は、外観上の特徴を形造っているだけでなく、室内の居住性を高め、更に、外壁や建具の耐久性を向上させるのに大いに役立ってきている。設備上も時代の要請に応える形で、情報化への対応、空調設備容量の拡張や方式の改善、大型ごみ処理装置の導入などをはじめ多くの改修を進めてきている。

上水と井水を併用している水質の保全についても、管理上万全の配慮をしてきている。

なお、日常的な維持管理についても、外国人をはじめとする不特定の人の利用に対して極めてしっかりした体制が組まれている。また、内装仕上材の多くが木材、織物、紙といった極めてソフトな素材であるにもかかわらず、丁寧で木目のこまかい対応によって、竣工時のまま30年を経過したとは思えない部分が少なくないのも特筆される点である。これからも、日本を代表するホテルとして機能し続けるように維持保全されてゆくことを期待するものである。